



平成24年4月18日

## 避難指示解除準備区域(南相馬市、田村市、川内村)への 帰還・復興を支援するための 放射線モニタリングアクションプランについて

標記の件について、内閣府原子力被災者生活支援チーム、復興庁、文部科学省及び環境省においてとりまとめましたので、別添のとおりお知らせします。

(総論、主要ポイント及び面的なモニタリングについて)

<担当> 文部科学省 原子力災害対策支援本部

加藤(かとう)(内線4604、4605)

電話: 03-5253-4111 (代表)

(その他、区域見直し等について)

<担当> 内閣府 原子力被災者生活支援チーム

布田(ぬのた)、加藤(かとう)

電話: 03-3501-1528 (直通)

<担当> 復興庁

小室(こむろ)、品田(しなだ)

電話: 03-5545-7334 (直通)

(井戸水、沢水、河川・水源地のモニタリングについて)

<担当> 環境省 水・大気環境局

【井戸水、沢水について】 土壤環境課 地下水・地盤環境室

柳田(やなぎだ)

電話: 03-5521-8309 (直通)

【河川・水源地について】 水環境課

古田(ふるた)

電話: 03-5521-8316 (直通)

避難指示解除準備区域（南相馬市、田村市、川内村）への帰還・復興を  
支援するための放射線モニタリングアクションプランについて

平成 24 年 4 月 18 日  
内閣府原子力被災者生活支援チーム  
復興庁  
文部科学省原子力災害対策支援本部  
環境省  
福島県

1. 目的

南相馬市、田村市、川内村において、平成 24 年 4 月に区域見直しが行われ、新たに避難指示解除準備区域が設定された。今後、避難指示解除準備区域（南相馬市、田村市、川内村）への帰還に向けて、安全の確保・安心の醸成に向けたモニタリングの強化が求められている。

このため、当該区域への帰還等を支援する一環として、文部科学省、内閣府原子力被災者生活支援チーム、復興庁、原子力災害現地対策本部、環境省、福島県等により、地元の要望を踏まえ、以下のモニタリングを実施する。

- ① 小中学校、高等学校、幼稚園、保育所（以下「学校等」という）や、病院、図書館、児童館・児童センター・障害児施設・放課後児童クラブ（以下「公共施設等」という。）の敷地内の主要なポイントのモニタリング
  - ② 学校等及び公共施設等を中心とした生活圏等に着目した無人ヘリコプターによる通学路、公園等の面的な詳細モニタリング
  - ③ 市村の個別の要望に対応した詳細モニタリング
- なお、必要に応じ、追加のモニタリングを行うことがありうる。

2. 具体的なモニタリングの概要

1) 公共施設等の主要ポイントのモニタリング【南相馬市】

学校等及び主要な公共施設等の主要ポイントにおける空間線量率（1m 及び 50cm 高さ）を測定。

2) 生活圏、里山等に着目した走行サーベイや無人ヘリコプターを用いた面的なモニタリング

今回は、里山等の無人ヘリコプターによるモニタリングで空間線量率（1m 及び 50cm 高さ）を面的に測定。

3) 自治体の要望を踏まえたモニタリング

ア. 飲用の井戸水や沢水等の引き水のモニタリング

避難指示解除準備区域内で飲用に供されている井戸水や沢水等の引き水について、ゲルマニウム半導体検出器を用いて水中の放射性物質の濃度を測定。

#### イ. 河川・水源地のモニタリング

避難指示解除準備区域内における河川、水源地の水質・底質について、ゲルマニウム半導体検出器を用いて放射性物質の濃度を測定。

#### 4. スケジュール

4月以降、順次 各機関において、対応可能なモニタリングを随時実施

5月以降、順次 空間線量率の測定結果をとりまとめた放射線分布マップの公表及び井戸水、河川・水源地のモニタリングの結果の取りまとめ・公表

(別添)

## 各モニタリングの概要について

### 1. 公共施設等の主要ポイントのモニタリング

#### 1) 趣旨

安全の確保・安心の醸成に向けて、避難指示解除準備区域内の学校等及び公共施設等の敷地内の主要ポイントについて、厚生労働省、福島県等と調整の上、NaI シンチレーション式サーベイメータにより空間線量率（1m 及び 50cm 高さ）を測定する。

#### 2) 測定対象

##### 【南相馬市】

・学校等：13 箇所（予定）（保育所 1 箇所、幼稚園 5 箇所、小学校 4 箇所、中学校 1 箇所、高等学校 2 箇所）

（測定場所：校庭・園庭、校舎・園舎内）

・病院：2 箇所（予定）

（測定場所：施設内、駐車場等）

※ 田村市及び川内村については、対象区域内に小中学校、高等学校、幼稚園、保育所や、病院、図書館、児童館・児童センター・障害児施設・放課後児童クラブが無いため、今回は測定なし。

#### 3) 測定方法

NaI シンチレーション式サーベイメータにより空間線量率（1m 及び 50cm 高さ）を測定する。

#### 4) 実施主体

文部科学省、（独）日本原子力研究開発機構（電力会社と協力）

#### 5) スケジュール

4 月下旬以降                      モニタリングを実施

## 2. 生活圏、里山等に着目した走行サーベイや無人ヘリコプターを用いた面的なモニタリング

### 1) 趣旨

学校等及び公共施設等の主要ポイントの周辺的生活道路や里山等について、走行サーベイや無人ヘリコプターによるモニタリングにより空間線量率（1m 及び 50cm 高さ）を面的に測定する。

### 2) 測定対象

○無人ヘリコプターによる面的なモニタリング

【田村市】

- ・市から要請のあった集落をはじめとするエリアの測定

※ 走行サーベイによる面的モニタリングについて、南相馬市においては、市で別途詳細な走行サーベイを近日中に実施する予定であるため、今回測定なし。また、田村市、川内村は、対象区域内に小中学校、高等学校、幼稚園、保育所や、病院、図書館、児童館・児童センター・障害児施設・放課後児童クラブが無いため、測定なし。

### 3) 測定方法

#### ① 無人ヘリコプターを用いた里山等の空間線量率測定

各自治体からの要望に対応して、無人ヘリコプターによる里山等の空間線量率（50cm、1m 高さ）の測定を実施する。測定は、地表からの高度 5～20m から、空間線量率測定を行う（また、当該箇所のうちアクセス可能な代表点を選定し、地上での空間線量率測定を実施する。）。なお、モニタリング中は、地上において安全監視に努める。

（参考）無人ヘリコプターの概要

○ヤマハ発動機(株) 自律飛行型無人ヘリコプター RMAX G1

- ・最大重量：94kg、飛行時間：90 分
- ・最大搭載可能測定器重量：10kg
- ・最高速度：72km/h
- ・搭載機器：全方位 CCD カメラ、GPS センサー、放射線測定器（NaI シンチレータ）等



### 4) 実施主体

文部科学省、(独) 日本原子力研究開発機構（電力会社と協力）

### 5) スケジュール

4月下旬以降                      モニタリングを実施

### 3. 自治体の要望を踏まえたモニタリング

#### 3. 1 飲用の井戸水や沢水等の引き水のモニタリング

##### 1) 趣旨

福島県等と調整の上、自治体からの要望に対応して、避難指示解除準備区域内で飲用に供されている井戸水や沢水等の引き水について、放射性物質の濃度の測定を実施する。

##### 2) 測定対象

対象区域内で飲用に供されている井戸水や沢水等の引き水

(おおよそ 2,700 箇所程度を想定)

※具体的な測定対象及び測定時期は、自治体の要望を踏まえて設定

##### 3) 測定方法

各市町村等の協力を得て、住民に使用されている井戸水や沢水等の引き水は、住宅内の蛇口等または井戸等から採水する。

採取した水は、ゲルマニウム半導体検出器を用いた放射性核種の分析により I-131、Cs-134、Cs-137 の水中における放射性物質の濃度を測定する。

##### 4) 実施主体

環境省（取りまとめ）、内閣府原子力被災者生活支援チーム（原子力災害現地対策本部）、文部科学省（厚生労働省、各市村、福島県、東京電力、その他分析機関（気象庁気象研究所、大学等）等と協力）

##### 5) スケジュール

4 月以降、順次            試料の採水

4 月以降、順次            試料分析

### 3. 2 河川・水源地のモニタリング

#### 1) 趣旨

福島県等と調整の上、自治体からの要望に対応して、避難指示解除準備区域内における河川・水源地の水質・底質について、放射性物質の濃度等を測定する。

#### 2) 測定対象

【南相馬市】対象区域内の河川の水質・底質

(太田川(丸山橋)、小高川(善丁橋、ハツカラ橋等)において、1回/2ヶ月程度の頻度で実施を予定(計6回程度)。

【田村市】対象区域内の河川・水源地(古道川発電所ダム)の水質・底質

(請戸川水系の主要な支流の末流及び合流後等水域の代表的地点(古道川発電所ダム及び古道川(高瀬川合流前)の2地点程度を想定)について、1回/2ヶ月程度の頻度で実施(計6回程度)。

【川内村】対象区域内の河川(木戸川)の水質・底質

(木戸川水系の主要な支流の末流及び合流後等水域の代表的地点(木戸川(上流)、小白井川(木戸川合流前)、川内川(木戸川合流前)、木戸川(西山橋(川内川合流後))の4地点程度を想定)について、1回/2ヶ月程度の頻度で実施(各地点計6回程度)。

#### 3) 測定方法

ゲルマニウム半導体検出器を用いた放射性核種の分析により I-131、Cs-134、Cs-137 の放射性物質の濃度等を測定する。

#### 4) 実施主体

環境省、原子力被災者生活支援チーム(福島県等と協力)

#### 5) スケジュール

4月下旬以降	試料の採取
5月以降	試料分析